

令和 3 年度

東 2 ・ 3 丁 目 中 央 線 舗 装 補 修 工 事

現 場 説 明 書 ( 条 件 明 示 )

( 実 施 )

大 湊 村

令和 3 年 7 月

## 1. 参考図書

設計図書の外に提示する「参考図書」については、入札参加者の迅速な見積りに対しての資料として提示するもので、請負契約上拘束するものではないので留意すること。

## 2. 仕様書

本請負契約における仕様書とは、秋田県土木工事共通仕様書（令和2年10月1日以降適用）及び本工事の特記仕様書をいう。

## 3. 現場説明事項（条件明示）

### （1）工事全般

当該工事における施工条件について、明示されなかった新たな事項が発生した場合は別途協議のこと。

### （2）作業時間

午前 8:00 ～午後 5:00 を基本とするが、それ以外の時間帯で作業を実施する場合は、監督員と協議を行うこと。

### （3）工程関係

1) 工事施工にあたっては、道路法、道路交通法、市街地土木工事公衆災害防止対策要綱、労働安全衛生法等関係諸法令、諸官庁の通達、工事施工に関する協定事項等を遵守し、諸官庁署への届出及び許可等の手続きは、速やかに行い監督員に報告すること。

2) 当該工事において、他の管理者等より条件を付された場合（施工時間帯等の制約を受けた場合）、または調整・協議が必要となった場合は別途協議のこと。

### （4）公害関係

1) 騒音、振動、地下水の低下等の影響により、調査及び対策が必要な場合は別途協議のこと。

2) 受注者は工事を施工するにあたり、第三者に及ぼす損害を可能な限り防止するため、最善の努力を払い適切な処置を講じること。

3) 受注者が善良な管理者の注意義務を怠ったことにより生じた工事損害補償については、受注者が負担すること。

4) 受注者は第三者に及ぼした損害に係る処理にあたっては、発注者と協議を行うとともに公正かつ迅速な処理に努めなければならない。

5) 工事の施工に伴い、周辺地盤等に変状をきたす恐れがある場合は、建築基礎等の定点観測を行うものとし、その内容については発注者と協議するものとする。

### （5）安全対策関係

1) 交通に関しては、道路使用許可条件の遵守、危険防止柵の設置、夜間作業を

行う際は保安用の夜間照明設備を設置する等の十分な危険防止策を施すこと。

2) 工事区域内での車両の通行、又は歩行者の通行に際しては、必要に応じて専任の交通整理員を配置し、通行の誘導、路面の補修に努める等、交通及び保安上十分な措置を講じること。

3) 工事中断期間は現場内巡視を行い、安全の確保に努めること。

4) 工事期間中の交通管理として、交通誘導員(B)を計 36 人日計上しているが、現地の状況、関係機関等との協議により変更が必要な場合は別途協議のこと。

(6) 特定建設資材の分別解体等・再資源化等

1) 本工事における特定建設資材の分別解体等・再資源化等については、工事発注後に明らかになった事情で予定した条件により難しい場合は、別途協議のこと。

2) 分別解体の方法は、条件明示した別表の事項と別の方法であった場合でも変更の対象としない。

3) 本工事で発生するアスファルト殻は、経済性を考慮し、南秋田郡大潟村字方口、運搬距離 10.3km の鹿島道路(株)大潟合材製造所 へ搬出し、中間処理を行うものとしている。なお、このことは積算上の条件明示であり、処理施設を指定するものではない。

(別表) 工程毎の作業内容及び解体方法

工程	作業内容	分別解体等の方法
①仮設	仮設工事 □有 ■無	□手作業 □手作業・機械作業
②土工	土工事 ■有 □無	□手作業 ■手作業・機械作業
③基礎	基礎工事 □有 ■無	□手作業 □手作業・機械作業
④本体構造	本体構造の工事 □有 ■無	□手作業 □手作業・機械作業
⑤本体付属物	本体付属物の工事 □有 ■無	□手作業 □手作業・機械作業
⑥その他(舗装)	その他の工事 ■有 □無	□手作業 ■手作業・機械作業

4) 本工事で処理施設に搬入できない廃棄物が発生した場合は、別途協議のこと。

(7) 残土

工事に伴い発生する残土は指定地（大潟村西4丁目地内）まで運搬するものとしている。運搬距離は 0.8km を見込んでいるが、現場条件等に変更がある場合は別途協議することとする。

(8) 用地関係

1) 工事で必要な用地の借用、及びこれに伴う諸手続きについては、受注者で対

応することとする。

- 2) 工事で必要な公道においての許可申請については、受注者で対応することとし、許可がおりた後、現場着工するものとする。

(9) その他

- 1) 工事現場で使用する車輛及び建設機械等の燃料として、地方税等に違反する軽油等（不正軽油）を使用しないこと。
- 2) 施工に伴い、支障となる物件が発生した場合は別途協議のこと。
- 3) 既設構造物の撤去及び復旧が必要となった場合は別途協議のこと。
- 4) 本工事において工事用除雪は計上していないが、施工上必要と判断された場合は、別途協議のこと。
- 5) 工事用電力設備、給排水設備は、関係法規に基づき請負者の負担で設置し、設備管理すること。
- 6) 工事に伴う排水は、最寄りの排水施設又は河川等への当該管理者の許可を得て排水し、必ず沈殿槽などを設けて周辺排水路の汚染汚濁のないよう十分管理すること。又、放流先に土砂が流出しないようにしなければならない。

4. 積算基準

工事費の積算は、次の積算基準に基づき実施している。

- 1) 土木工事標準積算基準〔共通編〕（令和2年10月1日以降適用）秋田県建設部
- 2) 土木工事標準積算基準〔道路編〕（令和2年10月1日以降適用）秋田県建設部
- 3) 土木工事標準積算基準〔参考資料〕（令和2年10月1日以降適用）秋田県建設部
- 4) 建設機械損料算定表（令和2年10月1日以降適用）秋田県建設部

5. 積算条件

(1) 主たる工種

「舗装工事」として積算している。

(2) 共通仮設費・現場管理費の施工地域等補正

「一般交通影響有り(2)-1」として積算している。

(3) 現場管理費の施工時期補正

全体工期日数における冬期率により補正率を算出して積算している。

(4) 路床安定処理工

- 1) スタビライザ（路床改良用・排出ガス対策型(第2次基準値)・処理深さ 0.6m×幅 2.0m）の所在地区分を「3」として積算している。
- 2) 固化材の種類は一般軟弱土用セメント系固化材、固化材使用量は 4.284t/100m<sup>2</sup>（ロス分含む）として積算している。なお、配合設計及び六価クロム溶出試験を実施した上で施工すること。配合設計は経済性を考慮したものとし、混合深さ、固化材種別、添加量に変更が必要な場合は、別途協議のこと。

(5) 技術管理費(六価クロム溶出試験)

- 1) 試験費用は現場管理費及び一般管理費等の対象としない。

2)路床安定処理工実施に伴い、六価クロム溶出試験費(試験方法①)を1検体分計上している。試験方法は、秋田県土木工事共通仕様書 参考資料「セメント及びセメント系固化材を使用した改良土等の六価クロム溶出試験要領」によるものとする。土質条件、施工条件等により試験方法、検体数に変更が必要な場合は、別途協議のこと。

(6) 構造物取壊し工

舗装版破碎は騒音振動対策費を見込んで積算している。

(7) 仮設工

片側交互通行を想定しているが、現場状況、住民への配慮などにより、変更が必要な場合は別途協議のこと。

(8) 建設機械運搬費(スタビライザ)

1) 施工は左右分割施工(片側交互通行)を想定しているため、スタビライザの運搬費及び運搬中の損料を2回分計上している。現場状況、住民への配慮などにより、変更が必要な場合は別途協議のこと。

2) 運搬中の損料は、以下の条件で積算している。

- ・ 供用1日当たりの損料額：路床改良用・排出ガス対策型(第2次基準値)  
処理深さ 0.6m × 幅 2.0m B 地区(豪雪地域)
- ・ 運搬に要する日数 : 片道0.2日(所在地区分「3」)。

6. その他

その他問題等生じた場合は、監督員と協議すること。